

日高町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

- ・日高町の高齢化率は、全国、全道の平均を大きく上回っており、自家用車での移動が難しい高齢者については、移動の足を確保することが必要である。
- ・市内の路線バスは乗車率が低く、日高町が民間バス事業者の赤字分を補填し、町民の足を確保している状況であった。
- ・このような状況のなか、効率的で利便性の高い公共交通の確立を目指し、「日高町地域公共交通総合連携計画」を平成21年度に策定した。また、計画に基づき、平成22年度には、町営バス（フィーダー系統）の実証運行を実施し、平成23年度から本格運行を開始したところである。

生活交通確保維持改善計画の目標

【目標】高齢者にとって利用しやすい交通体系の整備

高齢者等にとって利用しやすい、安全・安心な交通体系を築き、外出しやすいまちづくりを行うことで、高齢者等の移動に関する満足度の向上を図り、【日高地域】千栄線：61.8人/月、【門別地域】広富線：144.1人/月、豊郷線：48.3人/月）以上の平均利用者の維持を目指す。

令和4年度事業概要

■日高地域

路線名	運行路線	運行便数	運賃	備考
千栄線	日高総合支所⇄伊沢宅前	3往復/日	200円/回	予約運行方式

■門別地域

路線名	運行路	運行便	運賃	備考
広富線	鳩内⇄富川高校	2往4復/日	200円/回	予約運行方式
豊郷線	新生⇄富川高校	2.5往復/日	200円/回	予約運行方式

地域公共交通の現況

【日高地域】

- ・日高町町営バス [千栄線、岩内ダム線、占冠線、日高門別線、町内循環線]

- ・道南バス [日高縦貫線]

【門別地域】

- ・日高町町営バス [広富線、豊郷線、清島線、厚賀富川線、厚賀太陽線（新冠町共同運行）]

- ・道南バス [日高沿岸線、日高縦貫線]

- ・スクールバス [緑ヶ丘線、門別西線、福満線等]

- ・ジェイ・アール北海道バス [とまも号、ひだか優駿号]

協議会開催状況

- 令和4年6月20日 第1回協議会書面協議
 - ・地域内フィーダー系統確保維持計画について等承認
- 令和5年1月17日 第2回協議会書面協議
 - ・地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価について承認

※日高町地域公共交通活性化協議会のうち確保維持改善事業に係るものを記載

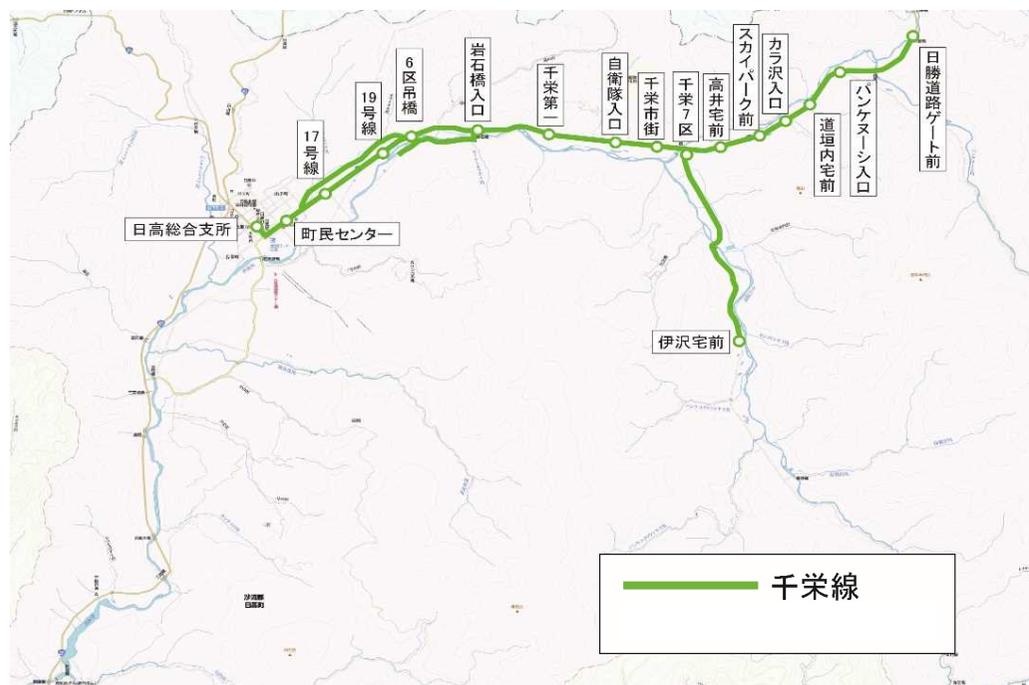
令和4年度事業の実施状況

(1) プロセス、創意工夫

- ・運行業務受託業者に対する定期的なヒアリングにより利用者のニーズを把握し、効率的な運行方法やダイヤ改正について継続的に検討を行った。
- ・病院等の主要施設での予約受付、運転手への口頭での予約受付の実施及び高齢者向けに民生委員等による予約サポート体制を継続している。
- ・バスの利用促進に向けた取組及び交通手段を見直す機会として、令和4年10月18日(木)に高齢者を対象とした、バス乗車体験、スマートフォンを活用したバス利用等の教室を実施した。
- ・令和5年度に策定を予定している地域公共交通計画に先立ち、既往資料から町内の公共交通の現況を整理し、地域公共交通調査等事業の事業量調査への手続きを実施した。
- ・コロナ状況下での利用者確保のため利用者に対する消毒液等をバス車内に設置し、安心・安全なバス運行を実施した。

(2) 運行系統

■ 日高地域



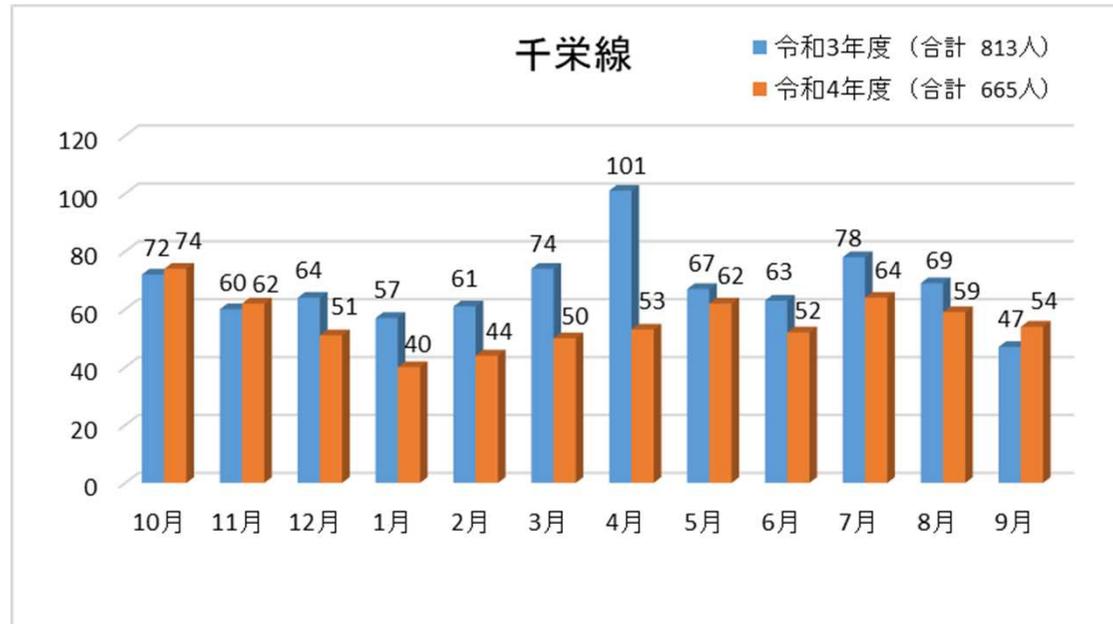
■ 門別地域



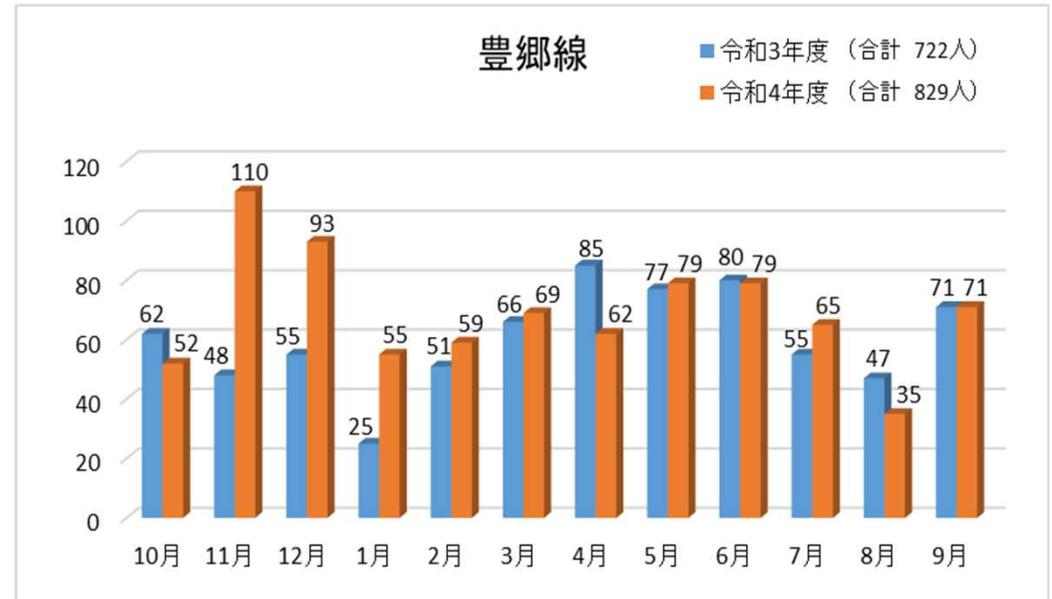
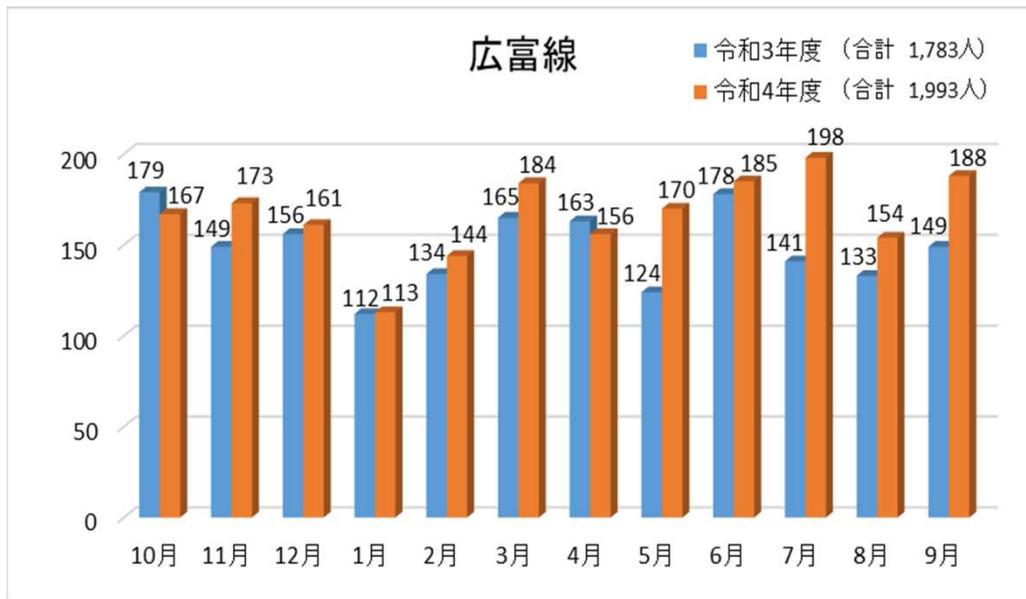
3) 利用実績

■ 日高地域

(単位：人)



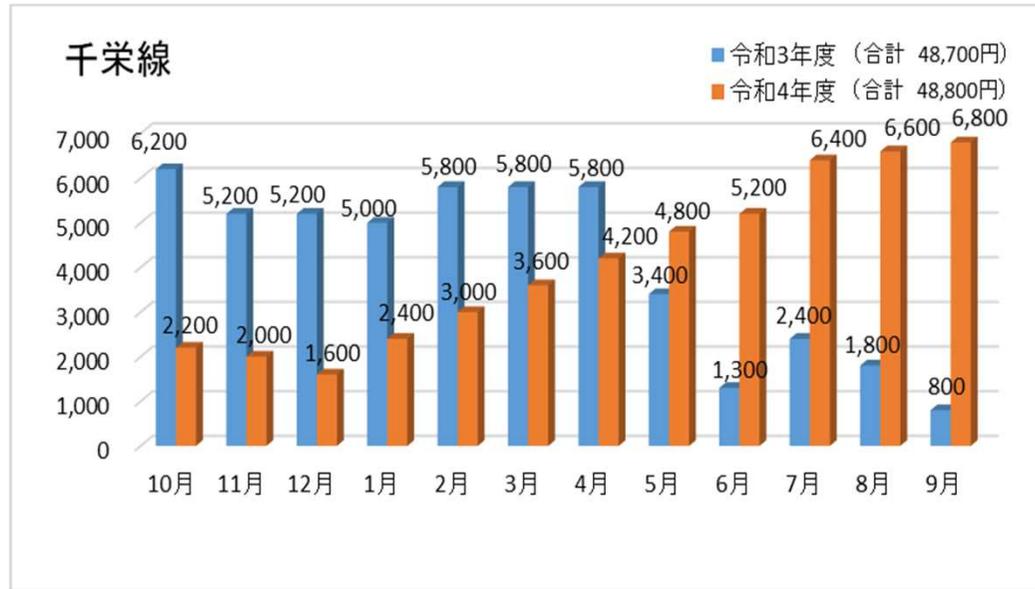
■ 門別地域



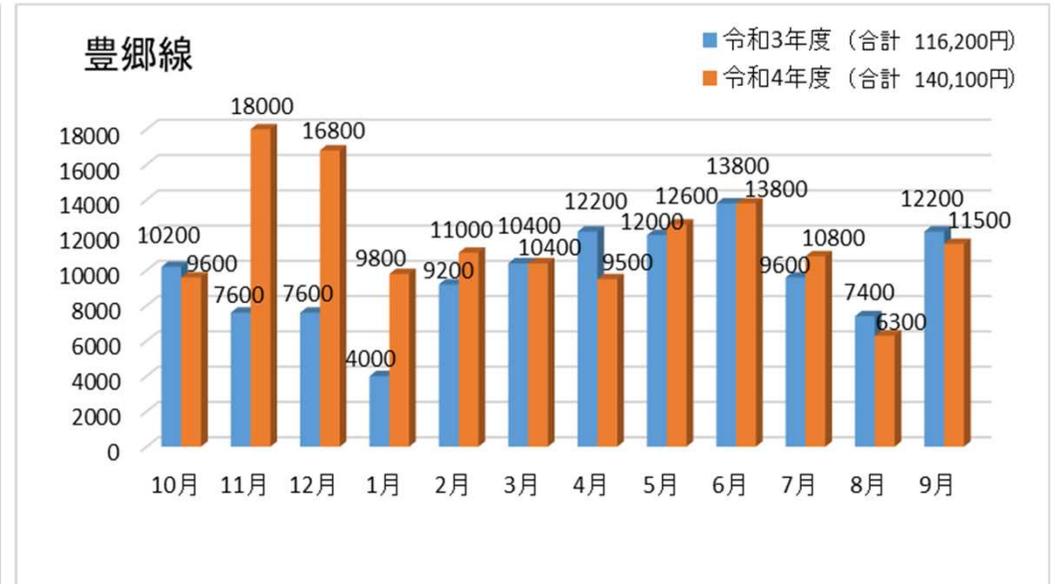
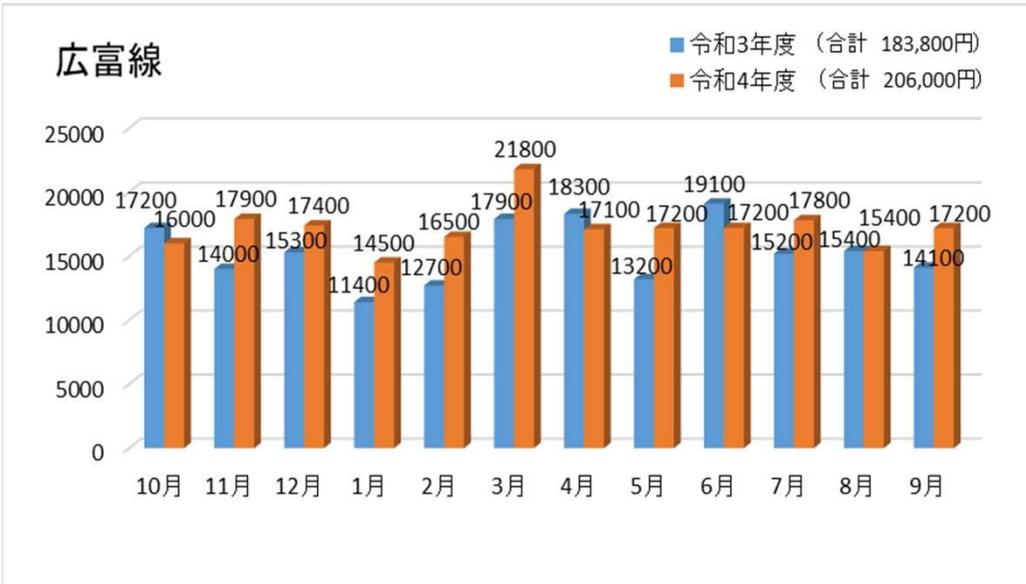
4) 収入実績

■日高地域

(単位：円)



■門別地域



5) 事業実施の適切性

- ・計画どおり事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

- ・千栄線は利用者数が55.4人/月であり、目標の61.8人/月を下回る結果でした。地域住民の減少が大きな要因であるが、利用者の増加に繋がる取組を目指す。
- ・広富線は利用者数が166.1人/月であり、目標の144.1人/月を約115.2%上回る達成率であった。これは、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進められたことにより、外出する方が徐々に増加したことが影響している。
- ・豊郷線は利用者数が69.1人/月であり、目標の48.3人/月を大幅に達成することができた。これは、学生（高校生）の通学手段としてデマンドバス利用が定着したことによるものである。
- ・高齢者の移動の足としての役割のほか学生（高校生）の通学手段としても定着している。学生（高校生）利用者は、今後の進学等により、利用者の増減に大きく左右されるため、安定した利用者数を確保していくため、利用促進及びあたら他利用者の発掘のため、バス乗車体験教室等を実施し参加者からの声も好評だったので今後も継続した取組を実施していきたい。
- ・町営バス運行における経常収支率は、約3.17%と昨年と比べ0.27%向上したが、今後も引き続き改善を図り、できる限りの経費節減に努め、経常収支率の更なる増加を目指す。

7) 事業の今後の改善点

- ・運行実績や利用者及び沿線住民の要望を勘案しながら、利便性の向上に繋がる取り組みを展開する。
- ・スクールバスの混乗化を含めた他の町営バスとの一元化について、実現可能な運行方法等を検討し、町営バス運行の更なる効率化を図る。
- ・富川市街地に交通拠点の中心となるバスターミナルを兼ねる複合施設を整備するため、さらなる公共交通の利便性を向上させ、地域住民の満足度を増加させる。
- ・地域公共交通計画の令和5年度策定に向け、協議しより良い公共交通の構築を実現する。

8) 地方運輸局における二次評価結果

(令和5年度分と併せて評価)